

南アフリカ 柑橘類の輸出シーズンは中東の状況に依存

FreshPlaza 2024年1月17日

南アフリカの2023年柑橘類シーズンは、昨年9月に最後の輸出が行われ、生産者と輸出業者はすでに今年のシーズンを見据えている。

アフリカ全土から調達した果実を輸出しているリップ社のウゼア・エセック氏は、「計画停電が実施されていることで、梱包と冷蔵のためのディーゼル発電の燃料代がかかり、また、過去にも現在もまだ大きな遅延が発生している港湾の状況にも対処しなければならず、生産者の視点から見ると状況は厳しかった」と説明する。(以下「」は同氏の発言)

南アフリカの柑橘類生産者と輸出業者は、欧州連合向けの冷蔵処理規制を順守する必要もある。以前は柑橘類を常温で出荷することができたが、今ではすべて予冷する必要があり、余分な費用がかかる。

「ポジティブな面では、市況は好調であった。我々の生産者の出荷量は30%少なく、エジプトの生産量も少なかったため、我々の生産物がヨーロッパ市場に到着した時そこは空っぽであった。弊社が供給している40の市場で、販売は容易であった。これにより、生産者はより良い収入を得ることができた。弊社としては生産者のために最高の利益を得ようとしており、そうしなければ翌年には輸出する果実が入手できない。果実が不足しているため、多くの市場が、通常は取り合わないようなサイズの果実も喜んで受け入れてくれた。」

同社は南アフリカのすべての地域から柑橘類を調達しており、同氏はジンバブエやボツワナなど他のアフリカ諸国での果実生産への投資も大幅に増加していると述べた。

「また、遅延を減らすために、ケープタウン以外の港から果実が出荷されることも増えている。市場も変化しており、南アフリカは従来、ほとんどすべての柑橘類をヨーロッパに出荷していたが、現在は多様化している。米国は成長市場であり、EUよりも問題が少ない。インドは南アフリカからの輸入を大幅に増やしており、柑橘類だけでなく、弊社は今週、マンゴーを初めてインドに輸出した。」

セネガルやモーリシャス、モルディブなどのアフリカの市場が成長している。中東及び極東の市場も成長しており、良好な収益をもたらしている。英国ではもはやEU諸国と同じ植防要件が適用されないため、英国への直接輸出は有利である。

同氏は今年のシーズンを見据え、南アフリカでは、何か重大な気象災害が起こらない限り、柑橘類が不足することはないと聞いていると述べた。

「中東での戦争は、大きな影響があるだろう。エジプトの輸出業者らは、喜望峰へ迂回する遠回りで、より運賃の高い航路を経由してアジアに輸出する代わりに、ヨーロッパへの出荷量を増やすと言っている。これは、南アフリカ産のシーズンが始まる頃には、東方(アジア)の市場では果実が大幅に減少し、ヨーロッパ市場にはまだ通常よりも多くの果実が出回っていることを意味する。今後数か月で何が起きるかによってすべて変わる可能性はあるが、南アフリカ産柑橘類の出荷シーズンは中東の状況に左右されることになるだろう。」

執筆者: ニコラ・マクレガー